

表1. PRISMA 2020 チェックリスト

| 大項目 | 番号 | チェックリスト項目 |
|----------------------|-----|--|
| タイトル | | |
| タイトル | 1 | 「システマティック・レビュー」であることを明示する。 |
| 抄録 | | |
| 構造化抄録 | 2 | PRISMA 2020 抄録チェックリストを参照 (表2)。 |
| 緒言 | | |
| 論拠 | 3 | レビューの論拠を既知の事実に合わせて記述する。 |
| 目的 | 4 | レビューの目的またはリサーチ・クエスションの明確な説明をする。 |
| 方法 | | |
| 適格基準 | 5 | レビューの組み入れ基準と除外基準、および統合のために研究がどのようにグループ化されたかを記載する。 |
| 情報源 | 6 | すべてのデータベース、研究登録、Webサイト、組織、文献リスト、研究を特定するために調べたり、助言を求めた情報源を記載する。それぞれの情報源が最後に調べられた日付を記載する。 |
| 検索戦略 | 7 | 用いたフィルターや制限も含め、すべてのデータベース、試験登録、Webサイトの完全な検索戦略を記載する。 |
| 選択プロセス | 8 | 各記録と取得した各報告をスクリーニングしたレビューアの数、独立して作業したかどうか、該当する場合はプロセスで使用した自動化ツールの詳細を含め、ある研究がレビューの選択基準を満たしているかどうかを判断するために使用した方法を記載する。 |
| データの収集プロセス | 9 | 各報告からデータを収集したレビュー担当者、独立して作業したかどうか、研究調査員からデータを取得または確認するためのプロセス、および該当する場合は、プロセスで使用した自動化ツールの詳細を含め、報告からデータを収集するために使用した方法を記載する。 |
| データ項目 | 10a | 求めたデータに対するすべてのアウトカムをリスト化して定義する。各研究の各アウトカム変域と共用するすべての結果を求めたかどうか (たとえば、すべての測定値、時点、分析) を記載し、そうでない場合は、収集する結果を決定するために使用した方法を記載する。 |
| | 10b | 求めたデータに対する他のすべての変数をリスト化して定義する (例: 参加者と介入の特性、資金源)。欠測や不明確な情報について用いられた推定を記載する。 |
| 研究論文のバイアスリスク評価 | 11 | 使用したツールの詳細、各研究を評価したレビューアの数、独立して作業したかどうか、該当する場合はプロセスにおいて用いた自動化ツールの詳細を含め、組み入れた研究におけるバイアスリスクを評価するために用いた方法を記載する。 |
| 効果尺度 | 12 | おもな要約尺度 (例: リスク比、平均差) を記載する。 |
| 研究の統合 | 13a | 各統合のための適格となる研究を決定するのに用いたプロセスを記載する。 |
| | 13b | 欠測している要約統計量の処理やデータ変換のような、表示または統合のためにデータ準備に必要な方法を記載する。 |
| | 13c | 個々の研究と統合の結果を表にしたり、視覚的に表示したりするために使用した方法を記載する。 |
| | 13d | 結果を統合するために使用した方法を記載し、その選択の根拠を示す。メタアナリシスを実行した場合は、モデル、統計学的異質性の存在と程度を特定する方法、および使用したソフトウェアパッケージを記載する。 |
| | 13e | 研究結果間の異質性の考えられる原因を探索するために用いた方法を記載する。 |
| | 13f | 統合結果の頑健性を評価するために実施した感度分析について記載する。 |
| 報告バイアス | 14 | 統合の結果において欠測した結果によるバイアスリスクを評価するために使用した方法を記載する (報告バイアスから生じる)。 |
| 確実性の評価 | 15 | アウトカムにおけるエビデンス総体の確実性 (または信頼性) を評価するために使用した方法を記載する。 |
| 結果 | | |
| 研究の選択 | 16a | 検索で特定した記録数からレビューで採用した研究数まで、理想的にはフローチャートを用いて、検索と選択プロセスの結果を記載する (図1)。 |
| | 16b | 選択基準を満たしているように見えるが除外された研究を引用し、それを除外した理由を説明する。 |
| 研究の特性 | 17 | 採用した各研究を引用し、その特徴を示す。 |
| 研究内のバイアスリスク | 18 | 採用した各研究のバイアスリスクの評価を示す。 |
| 個別の研究の結果 | 19 | 各研究ごとにすべてのアウトカムを示す。(a) 各グループの要約統計量 (適切な場合) と (b) 理想的には構造化した表とグラフを用いての効果推定量とその精度 (例: 信頼区間)。 |
| 統合結果 | 20a | 統合ごとに、寄与する研究間の特徴とバイアスリスクを簡潔に要約する。 |
| | 20b | 実施したすべての統計学的統合の結果を示す。メタアナリシスが行われた場合は、それぞれの要約した効果推定量とその精度 (例: 信頼区間) と統計学的異質性の評価を示す。グループを比較する場合は、効果の方向性を記載する。 |
| | 20c | 研究結果間における異質性の考えられる原因のすべての調査結果を示す。 |
| | 20d | 統合結果の頑健性を評価するために実施したすべての感度分析の結果を示す。 |
| 報告バイアス | 21 | 評価した各統合に対して欠測した結果 (報告バイアスから生じる) によるバイアスリスクの評価を示す。 |
| エビデンス総体の確実性 | 22 | 評価した各アウトカムのエビデンス総体における確実性 (または信頼性) の評価を示す。 |
| 考察 | | |
| | 23a | 他のエビデンスとの関連で結果についての全体的な解釈を示す。 |
| | 23b | レビューに含まれるエビデンスの限界について考察する。 |
| | 23c | 実施したレビュープロセスの限界について考察する。 |
| | 23d | 実践、政策、将来の研究のために結果の意味合いを考察する。 |
| その他の情報 | | |
| 登録とプロトコール | 24a | 試験登録名と登録番号を含むレビューの登録情報を提供する、またはレビューが登録されなかったことを記載する。 |
| | 24b | レビュープロトコールにアクセスできる場所を示す、またはプロトコールが準備されていなかったことを示す。 |
| | 24c | 試験登録時またはプロトコールで示した情報の修正について記載し、説明する。 |
| 支援 | 25 | レビューに対する財政的または非財政的支援の源泉、およびレビューにおける資金提供者と主宰者の役割を記載する。 |
| 利益相反 | 26 | レビュー著者における利益相反を宣言する。 |
| データ、コード、その他の資料の入手可能性 | 27 | 次のうちどれが公開されており、どこにあるかを報告する。テンプレートデータ収集フォーム、採用した研究から抽出したデータ、すべての分析で使用したデータ、分析コード、レビューで使用したその他の資料。 |

【転載元】

上岡洋晴,金子善博,津谷喜一郎,中山健夫,折笠秀樹,「PRISMA 2020 声明: システマティック・レビュー報告のための更新版ガイドライン」の解説と日本語訳. 薬理と治療 2021;49:831-42.